ダンボールコンポストまちづくりフォーラム資料集原稿

目標に向かっていつも走ってます
川崎市麻生区:環境を考え行動する会

[活動概要]

限りある資源を浪費することなく、次の世代に少しでもよりよい環境を残せたらと 2007 年 8 月に発足し、現在 11 名の小さな会です。さまざまな環境問題の講演会や学習会に参加し、毎月の定例会で情報交換する一方、できることから行動しようと、麻生区に住む 7 名がダンボールコンポストの普及やレジ袋削減の活動などを行っています。

川崎市においては、ごみの有料化はまだ程遠く、レジ袋はごみを出すのに便利な袋というのが現状です。「お店の方が貼りたくなるようなおしゃれなレジ袋削減プレートを作ろう」と高校美術部の生徒さんのイラストで 230 枚手作りし、商店やコンビニ、薬屋さんなどのレジに貼ってもらっています。

レジに貼るレジ袋削減プレート

[ダンボールコンポスト活動]

2008 年 8 月から私達のダンボールコンポスト活動がスタートして今年でちょうど 2 年半になり約 865 名の方に広めたところです。2 年間麻生区地域コミュニティー活動支援事業の助成を受け、地域での普及に力をそそぎました。小学生にも伝えたいという思いから 2010 年 6 月には、隣接する横浜市立あざみ野第二小学校の 4 年生 100 人がダンボールコンポストに挑戦するのを循生研方式でサポートしました。4 人で1つ計 26 個のダンボールが廊下に並んだのは圧巻でしたし、初めは「汚い！臭い！きもい！」と言っていた子供たちが、「これってすごい!」と感想を作文集にまとめ、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾄしてくれたのは実に感動でした。できた堆肥で夏休みの自由研究をしたり学級園での大根収穫や環境絵日記での賞など嬉しい発展もありました。これを地元の小学校にも広げたいと来年度のカリキュラムに入れていただくべく、今、説明に廻っています。

保育園 2 園でも、木枠コンポストによる生ごみ堆肥化の協働作業が始まり、今後が楽しみです。

また、ピートモスの代わりにココピート、他にも地産地消をめざし、廃土、腐葉土、コーヒーかすなどで堆肥を作りました。現在、成分分析を依頼して、その診断結果を解析できるよう勉強会を計画中です。

川崎市は緑地の多い北部麻生区から京浜工業地帯の南部川崎区まで 7 区に分かれており、「川崎市生ごみリサイクルリーダー」という制度があります。生ごみ堆肥化に経験の深い市民が認定されて、市民の生ごみ堆肥化に関する相談や講習にあたるというもので現在12人いますが、うち6人が私達です。市民が用事で区役所を訪れたとき、何気なく立ち寄って、始めるきっかけとなるよう区役所ロビー相談会を市に提案し、全 7 区で実現しました。最近では川崎市全体から声がかかり 1 時間半の距離を 6 人で走り回っているのが実状です。そこで、「核」となりえる人材の発掘を目標に全労済地域貢献助成事業の助成金をいただき、川崎市全区で連続講座を展開中です。発掘できるまで忙しさは続くわけで．．．(笑)

高津区役所ロビーでの
生ごみリサイクル相談会

[今後に向けて]

堆肥化の継続性を図るためには、実践者フォローと基材調達場所の確保は不可欠であり、大きな課題です。「タイムリーな声かけや電話相談、時にはレスキュー、そのためのコミュニティづくりには、常設の生ごみリサイクル相談ブースが欲しい！」

また「基材が必要なときに、誰もが手軽に手に入るには　どこで扱うのが良いのか？」

考え出したらきりがなく、「地域内循環をめざして農家との連携も視野に入れ．．．」なんて夢も尽きません。まずは地道に、知恵と力を出し合って、メンバー一人ひとりが　できることを 1 歩 1 歩進めている毎日です。

2011．2．14